

第3 2軍司令部壕展示施設基本計画検討委員会（第7回）

議事概要

1 日時：令和8年3月11日（水）10:00～12:00

2 場所：沖縄県立芸術大学芸術文化研究所3階小講堂

3 出席者：

沖縄戦研究分野	吉川 由紀	沖縄国際大学非常勤講師
展示施設等分野	山本 正昭	沖縄県博物館・美術館 主任学芸員
〃	鈴木 悠	那覇市歴史博物館 主任学芸員
〃	仲本 和彦	沖縄県公文書館指定管理者 （公財）沖縄県文化芸術振興会 公文書管理課 収集保存班 主幹
〃	平良 次子	対馬丸記念会対馬丸記念館 館長
平和ガイド・平和学習分野	大田 光	一中戦没学徒資料室 解説員
〃	玉城 直美	株式会社うなあ 代表
D Xによる情報発信分野	川端 卓	SCSK（株）ビジネスデザイングループ 地域共創事業開発部長
建築工学分野	小倉 暢之	琉球大学名誉教授
〃	清水 肇	琉球大学工学部工学科建築学コース教授

4 出席事務局

○沖縄県

沖縄県知事公室地域外交統括監
知事公室平和・地域外交推進課
生活福祉部保護・援護課
土木建築部都市公園課
土木建築部施設建築課
土木建築部首里城復興課
文化観光スポーツ部観光政策課
教育庁文化財課
教育庁県立学校教育課

○那覇市

総務部平和交流・男女参画課

5 議題

- 1 開会
- 2 第3回・第4回展示施設住民説明会の報告について
- 3 今後の進め方について
- ～ 質疑応答 ～
- 4 検討委員会委員の任期更新について
- ～ 質疑応答 ～
- 5 閉会（事務連絡）

6 議事内容

- (1) 質疑応答（議事次第（2）第3回・第4回展示施設住民説明会の報告について・議事次第（3）今後の進め方について）

【交通課題への対応について】

○大田委員（平和ガイド・平和学習）

交通課題等について、住民と協議を進めていく必要があるが、現時点では、住民にどこまで情報共有できているのか。

○沖縄県（事務局）

令和8年2月に首里杜まちづくり推進協議会の意見交換会を開催し、情報の周知や共有は図っているが、住民すべてに伝わっている状況ではないと認識している。

【展示施設整備の地域住民への周知について】

○平良委員（展示施設等）

第32軍司令部壕を文化財として指定し、保存・公開を進めていく事業目的が、住民に十分伝わっていないように感じる。住民の意見から、デジタルジオラマだけで十分ではないかとの意見もあるが、第32軍司令部壕を保存・公開する理念などについて住民への周知を深めることが重要である。

○沖縄県（事務局）

次年度も引き続きワークショップ等を開催し、第32軍司令部壕の保存・公開事業の理念等の周知を深めていきたい。

【住民との合意形成について】

○玉城委員（平和ガイド・平和学習）

第32軍司令部壕の保存・公開基本計画には、そもそも住民の意見が十分に反映されているのか。住民は施設自体に反対しているわけではなく、合意形成が不十分なまま計画が進められることへの違和感や、過去のオーバーツーリズムに対する不満を感じている。計画の繰り返しとならないよう、まずは看板設置など今すぐできることから行い、中長期的に住民と合意形成を図りながら進めることが重要ではないか。計画の繰り返しを防ぐための仕組み作りが必要である。

【ワークショップの議題について】

○仲本委員（展示施設等）

次年度計画しているワークショップについて、どこまでの情報を開示し、どのように検討委員会にフィードバックしていくのか、具体的な計画をもっておく必要がある。

○清水委員（建築工学）

- ①展示施設の開設に関わらず、首里地区では交通渋滞等が発生している。住民説明会では、展示施設の基本計画と交通渋滞等は切り離して議論を進める必要がある。
- ②次年度計画しているワークショップについては、展示施設の基本計画と新たな交通課題を同時に議論することは難しいように思われる。ワークショップの議論テーマの設定を工夫することが重要である。
- ③住民や壕の保存・公開を求める会等が、本質的に何を求めているのかを把握した方が、合意形成を図りやすいと考える。

○沖縄県（事務局）

既存の交通課題については、これまで県土木建築部の方で対応を進めてきた。今回、住民説明会を行ったことで、実際に住んでいる住民からの意見を聴取できたと認識している。

首里城正殿焼失前に起きていた大渋滞は現在解消しつつあるが、路上待機や路上駐車等の新たな交通課題が生じている。オーバーツーリズム対策に係る意見聴取として住民へのアンケート調査等も実施している。交通課題対策については引き続き県土木建築部の方で対応を進める。

【ワークショップの開催形式について】

○山本委員（展示施設等）

次年度計画しているワークショップについて、住民参加型の説明会形式とするのか、フィールドワークのようなイベント形式とするのか、現時点で具体的な計画はあるか。

また、住民は本展示施設ができることに対して漠然とした不安があるように感じる。首里地区には多くの戦争遺跡があるため、野外博物館としても活用できる。本展示施設がなくても、フィールドワークのようなプレイベントを開催すれば、住民に展示施設のイメージを共有し、不安を解消できる良い取り組みになると考える。また、フィールドワークを通して、戦争遺跡に関する情報も集まる。博物館は地域が育てていくものである。

○沖縄県（事務局）

ワークショップの企画・運営については現在検討中の段階であり、次年度検討委員会で協議した上で決定したい。

○川端委員（DXによる情報発信）

住民と合意形成を図るためにはワークショップの開催が重要になるが、ワークショップと首里杜まちづくり推進協議会等がタイムリーに連携できるようにスケジュール調整も重要である。

【ワークショップの参加者について】

○吉川委員（沖縄戦研究）

ワークショップの関係団体はどこを想定しているのか。

○沖縄県（事務局）

第32軍司令部壕の保存・公開を求める会、首里杜まちづくり推進協議会等のほか、地域とのつながりを構築できつつあるので、自治会長等も想定している。

○小倉委員（建築工学）

第32軍司令部壕の展示施設であるため、展示内容の意見聴取については、住民に限定するものではないように考えられる。

また、ワークショップでは開催毎に明確なテーマ設定を行い、建設的な議論を積み上げられるように開催したい。ワークショップには検討委員会の委員も参加するのか。委員の役割、関わり方について整理が必要である。

○平良委員（展示施設等）

ワークショップの開催は重要である。ワークショップは住民だけではなく、本展示施設に期待する方々も対象として広く意見を聴取するのが望ましい。ワークショップを通して、第32軍司令部壕を保存・公開する理念などを丁寧に説明し、住民にも理解いただけるようにしたい。

【ワークショップの役割について】

○仲本委員（展示施設等）

ワークショップは非常に重要な場となることが想定されるが、現時点では具体的な進め方が見えないため、ワークショップの役割を明確にする必要がある。ワークショップと検討委員会との連携の仕方についても十分な検討が必要である。

○清水委員（建築工学）

ワークショップは住民がお互いに意見を出し合いながら、合意形成を図る学びの場を構築できるとよい。

○山本委員（展示施設等）

展示内容について住民等からの意見を聴取することもよいが、第32軍司令部壕の展示施設としてどうあるべきなのかという視点を忘れてはいけない。日本全国に沖縄戦を研究したい方々もおり、どのような展示施設が期待されているのか念頭に置く必要がある。住民の意見に偏重し過ぎないように十分に留意が必要である。

○玉城委員（平和ガイド・平和学習）

第32軍司令部壕展示施設はすでにオーバーツーリズムが生じている生活圏内に建設されるため、住民の理解は必要不可欠である。南風原陸軍病院壕等のように、ほかの類似施設ではどのように合意形成が図られたのか、事例から学ぶことも重要と考える。

○大田委員（平和ガイド・平和学習）

ワークショップについては開催毎にテーマを設定するとのことであったが、テーマに基づく参加者の設定が重要と考える。

○平良委員（展示施設等）

南風原陸軍病院壕の事例では、当時、沖縄戦の歴史を後世に伝えようとする機運が醸成されていた。

第32軍司令部壕についても、実物を保存・公開し、沖縄戦の歴史を後世に伝えることを重要ととらえる機運がないと、住民の理解を得られない恐れがあり、事業目的や理念などを丁寧に説明することが重要と考える。

○山本委員（展示施設等）

第32軍司令部壕展示施設の基本理念は、「沖縄戦を知る学びの場」である。

展示施設の基本理念は常に念頭に置き、住民の意見との着地点を探っていく必要がある。

【ワークショップの開催方針について】

○小倉委員（建築工学）

今後、第32軍司令部壕展示施設の基本理念と住民の意見の調整を図っていくことが重要である。合意形成を図るためのワークショップの開催については委員の合意が得られたものと認識する。ワークショップは、開催してみないと参加者の反応が分からない部分があり、試行錯誤が必要と考える。

【検討委員会での議題について】

○鈴木委員（展示施設等）

展示施設の基本的な考え方について、住民には本質的な部分で否定されていないが、情報そのものが十分に伝わっていない状況である。公開が難しい坑道があること等を住民に丁寧に説明をしていくことで解決できると考える。

また、今後の検討委員会では、提示された条件の中から、より良い展示内容をどのように構築するかについて議論を深めていきたい。検討委員会では対応できると対応できないことがあるため、議論する範囲をより明確にする必要があると考える。

(2) 質疑応答（議事次第（4）検討委員会委員の任期更新について）

【新たに加わる委員について】

○仲本委員（展示施設等）

次年度に新たな委員が加わる可能性があるとのことだが、新任委員にはこれまでの検討経緯を十分に説明する必要がある。

【事業スケジュールについて】

○吉川委員（沖縄戦研究）

展示施設基本計画は令和7年度中には策定できなかったが、令和8年度内で基本計画を策定するのか。また、全体の事業スケジュールに変更は生じるのか。

○沖縄県（事務局）

展示施設基本計画は令和8年度内に策定したいが、計画ありきで事業を進めるわけではなく、合意形成が重要であると認識している。

現時点では、展示施設基本計画の策定が1年後ろ倒しとなっており、事業全体のスケジュールについても今後整理していくことになると認識している。

令和8年3月11日

知事公室 平和・地域外交推進課